

令和5（2023）年度事業計画 点検・評価

		P 事業計画		D 実行 / C 点検・評価		A 今後の改善方策等	
				評価	進捗状況		
Ⅰ 中長期経営計画に関する事業	1 ・ 質保証システムの確立	(1) 令和3年度より導入した情報システムの運用を推進し、新ポータルサイトや学修成果可視化システムを活用する。	○	「学習成果アンケート調査」結果、「授業評価アンケート」結果、シラバス到達目標へのDP項目の設定など、課長補佐で構成されたワーキンググループにて協議され、その内容を質保証協議会へ報告する業務フローが確立され、システムの運用改善や活用する取り組みがなされた。	このサイクルを持続させ、認証評価の第4クールに備えている。		
		(2) 「今後の入学者の在り方を検討する会」からの答申を基に、高等学校新教育課程や定員増、APや初年次教育との関係を踏まえ、今後の入学者選抜試験制度を検討する。	○	令和5年9月の運営協議会で答申。協議の結果、アドミッション・ポリシーも含めた3つのポリシーの検証を質保証協議会で協議、アドミッション・ポリシーの評価判定と体験授業及びその評価・基準の見直し及び学校推薦型選抜の見直しについては入学委員会で報告、留学生選抜は留学生教育高度化タスクフォースの提言を受けて入学委員会で協議、入試制度全般については次年度以降の初年次教育検討部会で恒常的に点検するよう指示がなされた。	2025年度入試より体験授業の変更とアドミッション・ポリシーの評価方法を改定するよう、2024年1月教授会で審議予定。学校推薦入試・留学生選抜入試については入学委員会等において次年度に継続して協議を行う。		
		(3) 令和4年度より運用を始めた新学事システム（AAA）の運用サイクルの構築とそれに合わせたガイダンス内容・日程・公開情報の検討を行い、令和6年度から実施する。	○	令和5年度より新学事システム（AAA）の運用サイクルにあわせ全学年統一した履修登録期間などに変更を実施し、それに加え新年度ガイダンスの履修指導時に前期・後期とも受講指定科目を登録し年間を通した履修指導が実施できるように調整（11月、1月と電翔とオンライン会議を実施）を行い、令和6年度より実施予定。	令和6年度からの新しいガイダンスについて、令和7年度に向けて検証を教務委員会で行う。		
		(4) 令和4年実施の1年次の進級判定や令和5年度実施の授業出席状況の共有に伴い、履修指導や就学支援方法の検討を行い新たな履修指導を実施し、令和7年度以降の離学率を減少させる。	△	学生、学年、領域、科目別の学生前期出席状況を11月10日の教務委員会で報告。後期科目の出席状況とを集約し、休退学状況や単位修得状況と合わせて次年度に履修指導・支援方法を検討予定。	出席状況や進級状況、単位修得状況など離学者を減少させるために必要なデータについて精査を行う。		
		(5) 新たなプロジェクト科目やスタディスキル実習の実施に伴い、その他の初年次教育科目の見直しを行い、令和6年度からの実施に向けて検討をする。	○	令和5年度中に初年次教育検討委員会を5回実施。未検討であった「大学入門」「キャリアデザイン概論」について検討し、「大学入門」については科目内容を見直すとともに極力早い段階で大学に慣れるために「1」「2」ともに前期科目に変更。「キャリアデザイン概論」については開講方法を変更し令和6年度から実施予定。	初年次教育における未検討科目、ファウンデーション実習、芸術基礎科目について、学部共通受講指定科目と領域受講指定科目の接続を検討する。		
	2 ・ 教育・研究の高度化、先鋭化と拡張	(1) イラストレーション領域の4コース制がスタートすることから、その授業環境を更に充実させるための整備を図るとともに、同領域のショールームを整備し、教育効果を高め、入学者募集力を強化し、同領域のブランド化を推進する。	△	令和6年の2月～3月にかけて、「ショールーム」の工事予定。	引き続き、イラストレーション領域のブランド化を推進する。		
		(2) 附属図書館において、令和3年度よりオンラインで実施している学生選書事業について、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、可能であれば書店実店舗において実施する。	○	令和5年11月、3年ぶりに書店実店舗（丸善京都本店）において「学生選書2023」を実施した。図書館職員2名が同行し、8名の学生が参加（昨年度オンライン実施7名、86冊）して、過去最多となる119冊の図書を選書した。学生による図書紹介POPとともに令和5年12月11日にコーナーを設置している。	非常に有意義な取り組みであり、引き続き継続していく。		
		(3) 令和6年度に向けたコンピュータ室の整備として、映像編集コンピュータ室（仮称）（旧情報デザインコンピュータ室1）については、PC端末をApple社のハイスペック機であるMac Studioにリプレイスする。	○	令和5年9月、Apple社のMac Studio 27台を購入し、一旦、現情報デザインコンピューター室①に設置した。令和6年2月に映像共通コンピュータ室（現共通コンピューター室②）に移動させ、高度な映像編集に適した環境を整える。	最先端のコンピュータ環境を今後も継続して整えていくため、数年に一度の入れ替えは引き続き必要となる。		
		(4) ファブリケーションcommonsで運用している光造形3Dプリンタについて、メーカーのサポート及び部品供給が終了したため、後継機種にリプレイスする。	○	令和5年5月、新たな光造形3Dプリンタを購入し、既存の機種より大型で精度の高い造形が可能となった。増加し続ける学生のニーズに対応するため、サポート及び部品供給が終了した既存の機種も継続して使用している。	日進月歩で新たな光造形3Dプリンタが開発され続けている。予算を考慮しながら、高等教育機関としてふさわしい機種の入れ替えを行っていく。		
		(5) 学生の研究活動支援「SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成）」、学生の主体的な地域活動支援「seianチャレンジ」を推進していく。	○	研究活動の活性化を目的とした「SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成）」については7件、「seianチャレンジ～学生が取り組む地域活動支援制度～」については6件が採択され、実施している。	「SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成）」については応募件数が多く（20件）、学生へのサポートに多くの時間を費やしている。採択手順などの見直しを検討する。		
		(6) 特別研究助成の充実を図るとともに、研究者の支援体制を強化する。	○	特別研究助成は1件採択。支援体制の強化策として未来社会デザイン共創機構に技能職員1名と臨時職員1名を配置。	応募1件（採択1件）にとどまった。教員の研究活動の活性化について調査、検討を行う。		
	3 ・ 「就職に強い芸術大学」の評価確	(1) キャリアサポートセンター長を中心に、今後のキャリアサポートセンターのあり方を検討する。	○	R6年度よりキャリア科目をトータルマネジメントでき、キャリアサポートセンターを統括できる専任教員を新規採用。今後のキャリアサポート体制を強化した。また、学生向けキャリアサポートセンターWebサイトを開設。イベント告知や求人情報を学生にわかりやすく一元化した。	新規採用の専任教員とともに、キャリア科目とキャリアサポート支援との連携を強化し、2025年度に向けてキャリアサポートセンターのこれからを検討する。		
		(2) 学生にとってわかりやすいキャリアデザイン科目となるよう再構築し、実施する。	○	R5年度キャリア科目の見直しを行い、卒業までの進路決定に必要な知識・技能を、授業によって身につけることができる科目構成とした。特に卒業後、就職を希望する学生にとっては履修しておくことが望ましい科目としてわかりやすく明示したことで、一部科目（「就業力育成論3」授業内容：筆記試験対策）では履修者を大幅に増やすことができた。（想定履修者数20名⇒2023年度履修者数84名）	2025年度以降「就業力育成論3」は開講しない予定であるため、筆記試験対策を別の科目の中に含める予定。卒業後必要な社会人基礎力を身につけられるよう、必要な知識・技能を見極め、キャリア科目の内容を強化・検討する。また、今後増加予定の留学生に対し、卒業後の多様な進路希望に対応できるよう、留学生支援センターと連携を図り、情報の共有ができるよう連携を強化する。		
		(3) キャリアデザイン科目とキャリアサポートセンターとの連携強化を図る。	○	「就業力育成論1・2」、「就業力育成演習B・C・D」、「インターンシップA・B」では、キャリアサポートセンタースタッフが科目内容等を提案し、授業実施についても担当教員とともに運営を行った。	キャリア科目が時代に応じた内容で、真に学生の進路選択に役立つよう、キャリア科目教員とキャリアサポートセンターが情報共有を図り、引き続き連携を強化する。		
		(4) 早期から、就職や進路に対する意識を醸成するため、2年生対象のショート面談を開始する。	○	R5年10月10日（火）～27日（金）までの期間、2年生対象者206名に対し、118名の面談を実施した。早くからキャリアサポートセンターの存在を認識させ、それぞれの進路について考えるきっかけとなった。	未面談者に対してのリサーチと次年度参加者数増加に向け、告知の徹底と各領域のキャリア担当教員への周知方法を検討する。		
	4 ・ グローバルと対応、多様化の推進	(1) 既存の学生会組織の活動について在り方について検討する。	○	学生会と教学課員との打ち合わせを8回（10/13、16、19、11/9、17、24、12/6、14）実施、現状の組織体制と今後の組織の在り方について聞き取りを行い、学生委員会で報告を行う。新型コロナウイルス感染症による自粛期間が明けたことにより、実施していなかった学内イベントが盛んに行われるようになり、危機していたイベントへの参加意欲や企画意欲の低下がみられなかった。	学生会に自主性・継続性を持たせるため、引継ぎ事項の整備及び組織体制の在り方について、継続して検討をず続ける。		
		(2) 学内奨学金の在り方について再検討を行うとともに、入学後の給付型奨学金や授業料減免制度の在り方について検討を行い、経済的理由による離学率を減少させる。	△	日本学生支援機構給付奨学金制度で入学した学生の家計収入により後期から給付額が変更になった学生の修学継続に向けて、学内奨学金の申請期間を年2回に変更することを次回学生委員会で審議する。	日本学生支援機構の新たに奨学金制度（第4区分）等を確認し、本学独自の奨学金制度をあり方を検討する。		
		(3) 芸術分野の裾野を広げるために、中学生を対象とする公募型オープンキャンパスを実施する。	○	8/26に実施。在学生を指導者としたワークショップに約60名の中学生の参加があった。	次年度は8/31に実施予定。一般公募と卒業生（中学校教員）ルートからのハイブリット公募型で更なる参加者増を目指す。		
		(4) 外国人留学生の日本語能力向上と卒業までに日本語能力試験の資格取得を促進するため、日本語課外講座を実施するとともに、日本語能力試験受験料助成制度を検討する。	×	株式会社アルクエデュケーションと日本語課外講座について意見交換などを行い、本学が求めるプログラム内容を共有した上で、先方からの提案待ちの状態では至っていない。今後の進捗状況によっては、他社に乗り換えることも検討する。	外国人留学生は日本語能力に差があるため、それぞれに合わせた授業内容の検討が必要であり、留学生教育高度化タスクフォースで引き続き検討する。		

Ⅰ 中長期経営計画に関する事業	5・卒業生との連携強化	(1) 新生活様式（アフターコロナ）における新たな同窓会との連携事業を策定する。	○	同窓会と連動した企画として、今年度開催されたホームカミングデーはアフターコロナ対応ということで、制限を解除した形で実施され、これまでにない参加者数を記録した。また、これまでなかった試みとして、大学祭時に行われた新しい形の役員会や同窓会が中心となって運営する同窓会ホームページの開設など、これまでになかった試みを実施した。	2024年度より、キャリア科目内の卒業生によるゲストスピーカーの選定と、紹介を同窓会と連携して実施できるよう検討する。
		(2) 外国人留学生における卒業後のネットワーク構築について、他芸術大学の状況を調査の上、オンライン上でのコミュニティの構築方法を企画する。	○	他芸術大学の状況を調査はできていないものの、同窓会ホームページを開設し、オンライン上でのコミュニティの土台を構築した。	引き続き、他大学の状況を調査を進め、外国人留学生における卒業後のネットワークの構築を図る。
	6・地域連携の深化	(1) 滋賀県および京都府の関係団体、地元企業を招き、本学の教育・研究内容や学生の学修成果などプレゼンテーションする企業向け大学説明会を企画する。	○	滋賀県中小企業団体中央会と連携、組合会員様向けの「大学説明会」を今年度も実施。学生による連携事業の事例発表だけではなく、学生との交流会を実施した。	企業、学生の参加者を増やし、規模の大きいイベントとして検討していく。
		(2) 「コミュニティスペース結」を11月にリニューアルオープンする。	○	「コミュニティスペース結」としての構築、ロゴデザインの見直し、アートエリアの設置などを経て、10/17にリニューアルオープンを迎えた。カフェとしての営業はもちろん、「ゆいらぼ」や学生のイベント利用も始まっている。	「ゆいらぼ」を含めた学生発信のイベントの充実など、アートエリアの更なる有効活用を実施する。
		(3) 地域の拠点としての「キャンパスが美術館」の認知度向上を図るため、大学所蔵作品を活用した展覧会など、多様な企画を実施する	○	11月に博物館相当施設への登録を完了。認知度向上のため、回覧板利用による広報をスタート。職業体験や園児の見学など、「コミュニティスペース結」内のインフォメーションコーナー設置など積極的な情報発信を行った。また、収蔵作品展や卒業制作のセレクション展、学内教職員の作品展など、多様な展覧会を実施。	学生有志による企画組織「ミュージアムメンバー」を次年度設置予定。引き続き、積極的な広報と近隣の公的施設との連携を深めていく。
	7・財務体質強化と体制整備	(1) 入試執行の効率化とミス防止、志願者の利便性向上を図るため、インターネット出願システムを導入する。	○	複数の業者を比較検討した結果、メシウス株式会社のシステムを導入することを決定。（11月に契約）2025年度入試から運用予定。	2025年度入試から運用するために、2023年度からシステム構築を行う。
		(2) 本学ウェブサイトにおける領域紹介コンテンツを充実させる。本学ウェブサイトやSNSから接触して来た受験生へのプロモーションを強化するとともに、今後の大学案内（紙媒体）のあり方について検討する。	△	ウェブサイトの閲覧状況について外部業者に解析を委託し現状把握を行なった。また、領域運営サイトの領域での運用状況について調査を行なった。その結果を元に、今年度と2025年度で現状のサイトの導線の見直しや、領域ページのマイナーチェンジ、領域運営サイトの再構築などを実行する計画を立案した。大学案内のあり方については、2027年度版より新領域体制になることから、2026年度版まではマイナーチェンジにするという方針で検討中。	2023年度は状況把握や全体の計画が主になったため、2024年に継続する形でウェブサイトのブラッシュアップを行う。
		(3) 本学ウェブサイト上での領域紹介や紙媒体からの移行など積極的なデジタルコンテンツを利用した募集活動の構築を行う。	○	ウェブサイト・ネット広告・ウェブ進学媒体・SNSなどのネットワークを利用した広報と、大学案内などの紙媒体のあり方について検討を行い、2024年度から2027年度までの広報計画を立案した。定員増を踏まえ、ウェブ進学媒体の効果を測定するため、新たにウェブ進学媒体（マイナビ）やウェブ広告（スタディプラス）という接触者増のためのツールを導入した。	今後効果測定を行いながら、広報媒体の精査と、運営体制の構築を行う。
		(4) イベントや営業活動が対面実施に戻りつつある中で、学内で実施するオープンキャンパスや連携授業などへの参加促進のため、団体バス動員のプロモーションを強化する。	○	4月～8月オープンキャンパス合計参加者数 今年度726名←昨年度571名（昨対比127%）うち団体バス動員 今年度222名←昨年度129名（昨対比172%）また、団体バスで動員を利用した高大連携・卒展見学などにおいても昨年同様年間12件程度になる予定。大学の認知度や立地面から、個人でのイベント参加者を増やすことは容易ではなく、バス動員により高校や画塾単位で参加してもらえることは募集面で大変有効である。	2月卒展見学、3月体験授業型オープンキャンパスへのバス動員を実施予定。
		(5) 人事管理システム及び年末調整システムの導入し、雇用契約や入社手続きをペーパーレスで完結し、教職員情報を蓄積するとともに、年末調整やWeb給与明細、様々な労務手続きをデジタル化する。	○	平成6年度雇用契約や年末調整のペーパーレス化を実施。引き続き、教職員データベースの構築、Web給与明細等の労務手続きをデジタル化を進める。	引き続き、教職員データベースの構築、Web給与明細等の労務手続きをデジタル化を進める。
		(6) 改正電子帳簿保存法に対応したシステムを導入し、あらゆる国税関係書類を検索要件に必要な取引年月日・金額・取引先を正確にデータ化した上で保管する。	○	11月から電子帳簿保存法に対応したクラウドサービス「Invox電池帳簿保存」を導入し、令和6年1月より本格始動した。	電子帳簿保存法への対応は一旦完了し、今後は中期的なスケジュール感で経理のデジタル化を進める
Ⅱ・新型コロナウイルス対策に関する事業感		(1) 共有部の定期的な消毒作業などの衛生管理を徹底するとともに、換気扇の取替やウイルスの飛沫防止用アクリルパネルの増設など、必要な設備備品を整備する。	○	消毒作業や常時換気は継続しつつ、5月8日以降は飛沫防止用アクリルパネル等を撤去。	コロナ禍で得た教訓を活かしながら、コロナ前に戻していく。
		(2) 職場内の人流抑制を図るため、教職員の出勤管理システムや年末調整システムの導入を図る。	○	今年度の年末調整より、クラウドシステムを導入し、教職員の利便性の向上と担当課の事務手続きの効率化を図った。	次年度は本学にフィットした出勤管理システムの調査を実施する。
		(3) コロナ禍終息を見据え、講義室や食堂等の厚生施設の感染症対策を見直し、ウィズコロナに適した設備等の整備計画を立案する。	○	業務DX化の推進、オンライン会議や在宅勤務制度を活用し、よりよいワーク・ライフ・バランスを実現する業務遂行をするよう周知した。また、食堂の混雑緩和や厚生施設の充実を図るため、食堂棟横での弁当販売やキッチンカーの招致、焼き立てパンの自動販売機の設置などを行った。売り上げも想定以上あり、学生や教職員の反響も高かった。	一旦コロナ対応は終了した。
Ⅲ・開学30周年記念事業		(1)成安ホームカミングデー 2023 30th anniversary	○	11月11日（土）開催。「成安 ホームカミングデー 2023 30th Anniversary」は多様なイベントで卒業生や関係者を魅了し、大成功に終わった。参加者数は予想を上回り、各イベントは賑やかで活気にあふれていました。特にファッションショーやヒーローショーは大きな反響を呼んだ。 卒業生：174名（事前申込者150名、当日受付者24名）、同行者：58名、退任された教員：5名、聚英会、さざなみ会、教育後援会：15名、合計：252名	「成安 ホームカミングデー 2023 30th Anniversary」は無事終了した。今回は参加者も例年に比べ多く、充実した内容となったため、次回開催時も今年度を参照し、実施したい。
		(2)開学30周年記念展覧会 2023秋の芸術月間 セイアンアーツアテンション16	○	10/13～11/11（開催日21日間）の期間中のべ826名が来場（前年比49%増）。会場中にギャラリーツアーやトークイベントも実施。	次年度についてもセイアンアーツアテンション17を秋に実施予定。
		(3)附属近江学研究所 特別公開講座 「禍転じて ～禍とともに暮らす 自然災害と里山の再生～」	○	5/13に今森光彦氏による特別公開講座を和邇文化センターで実施。202名が参加、好評を得ることができた。	次年度は近江学研究所開設15周年記念イベントとして、令和6年4月27日を「近江学の日」として学内で複数のイベントを実施予定。

★事業計画の達成率

A 事業項目数	36
B 実行済み事業数	28
C 実行予定（年度内）事業数	4
D 未実行事業数	1
E 事業達成率	88.9%